

Creative Security Partner

CSP 通信 volume **42**

第53期中間（事業）のご報告

2024年3月1日 - 2024年8月31日

人々と街の安全を創り 安心してやすらげる社会を 実現します

代表取締役 執行役員社長

市川 東太郎



で微増となりました。一方、親会社株主に帰属する中間純利益は、前年実施した、りらいあコミュニケーションズ株式会社の株式売却の反動により、前年同期比で減益となりました。

当中間連結会計期間の売上高は34,798百万円（前年同期比3.3%増）、営業利益2,241百万円（同0.6%増）、経常利益2,346百万円（同0.4%増）、親会社株主に帰属する中間純利益1,819百万円（同59.2%減）となりました。

また、セキュリティ事業におけるセグメントごとの売上高は、常駐警備部門17,184百万円（同3.8%増）、機械警備部門10,938百万円（同4.2%減）、運輸警備部門1,683百万円（同5.3%減）、工事・機器販売部門4,021百万円（同30.6%増）でした。

Q 第53期 中間期の業績は いかがでしょうか

当中間期の業績は、売上では7月に実施した阪急阪神ハイセキュリティサービス株式会社の常駐警備事業の承継（※P.8にてご紹介）や、防犯カメラを活用した画像関連システム及び入退室管理システム等の大型の機器工事案件が好調に推移したこともあり、前年の広島サミット関連の臨時警備の実績をカバーして前年同期比で増収となりました。利益面につきましては、営業利益と経常利益は、エネルギー資源や原材料価格の高騰、継続的な円安に伴う物価上昇、離職防止や処遇改善に伴う人件費の増加など、厳しい事業環境下にありましたが、前年同期比

Q 中期経営計画「Creative 2025」の最終 年度に向けたお考えをお聞かせください

2025年に開業予定の高輪ゲートウェイシティに新たなシステム「梯（かけはし）」を導入します。この「梯」は、センサーや画像の情報と警備員の位置情報を連携させ、異常をいち早く把握して、近くにいる警備員が速やかに駆けつけてお客さまに寄り添い、安心を提供します。これによりお客さまの危険を事前に察知して寄り添い安心していただく、「安心のレベルが数段高い価値ある街づくり」に貢献ができます。「梯」の実装は正に、CSPのスローガンである「常識を超えろ、昨日までの安心を超えろ」のサービス提供の実践であり、お客さまにとっても私たち社員にとっても、CSPの創業の理念の一つである「会社に関係するすべての人々の幸福を追求する（幸せにする）」ことにつながると考えています。

「Creative 2025」の売上目標800億円の達成に向け、高輪ゲートウェイシティの開業や阪急阪神ハイセキュリティサービス株式会社の常駐警備事業の承継など、これらが非常に大きな要素として加わりました。今後も当社グループは、お客さまからもステークホルダーの皆さまからも、私たちが自負している「Creative Security Partner」になっていくために取り組んでまいります。

Q 株主の皆さまへ メッセージをお願いします

コロナ禍を経て、世の中の状況が大きく変わり、少子高齢化に伴う労働人口の減少や、調達環境が非常に厳しいという社会課題が顕在化してきました。優秀な警備人材の確保も益々困難な状況であり、働き方改革を前提とした人材活用も重要となる中、私たちは、警備のカタチを「人を中心とした警備」から「人と技術を融合させた警備」にシフトしてきました。多様化する安全・安心へのニーズにも対応するため、警備やサービスに多種多様な新しい技術も取り入れて、これからの環境に一番合った形での融合に取り組んでいきます。

当社グループは「Creative 2025」の最終年度の目標達成はもちろんのこと、その先の未来も見据えて持続的な成長と更なる企業価値の向上に努めてまいります。

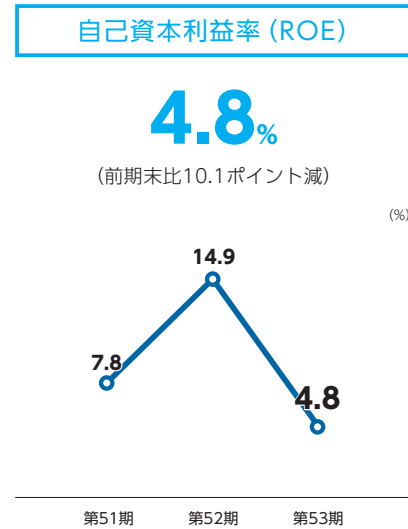
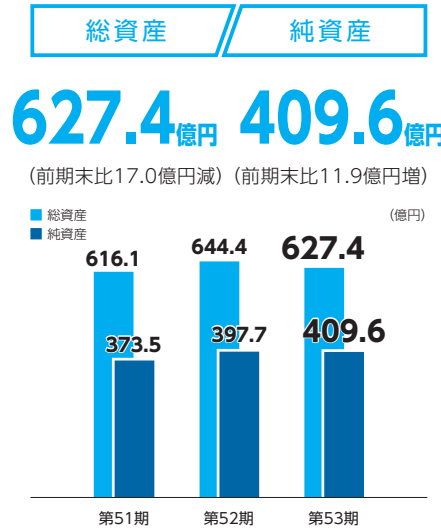
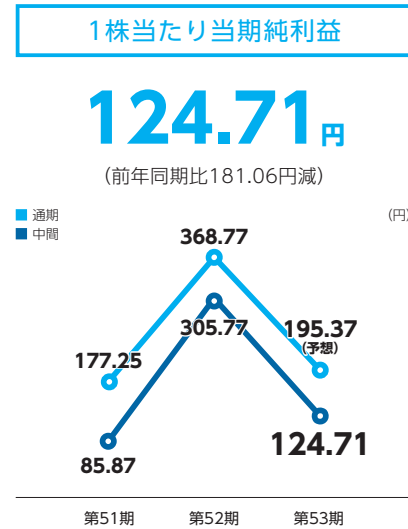
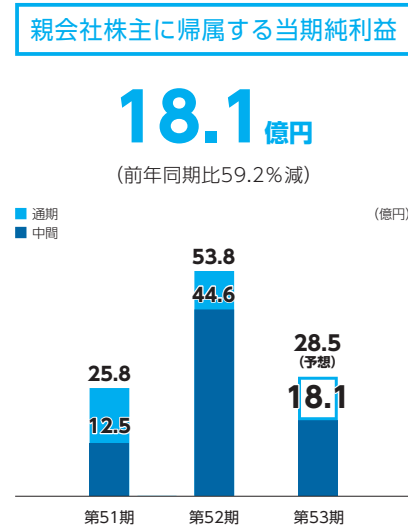
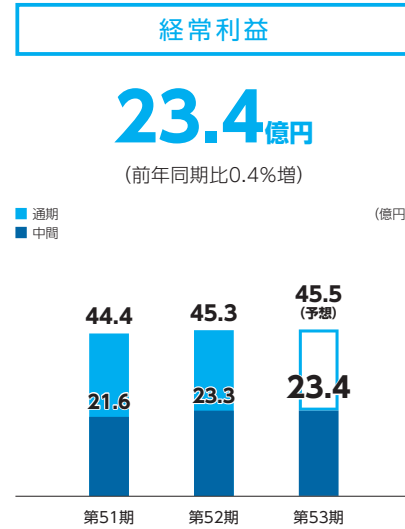
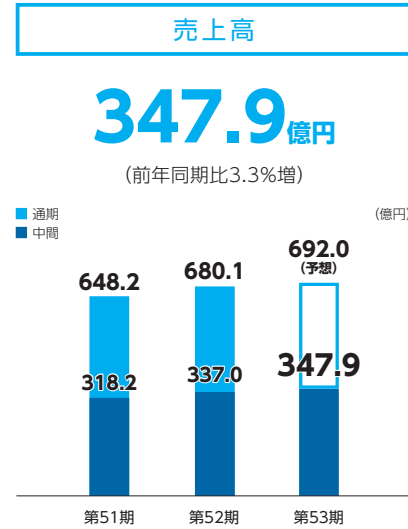
なお当中間期の配当は、安定した配当を継続的に行うという基本方針のもと、1株当たりの配当金につきましては、昨年度と同額の30円の配当といたしました。期末も同様に1株当たり30円の配当を予想しております。今後も株主の皆さまのご期待にお応えできるよう、CSPグループ一丸となって取り組んでまいりますので、引き続きのご支援をよろしく願い申し上げます。

連結財務ハイライト

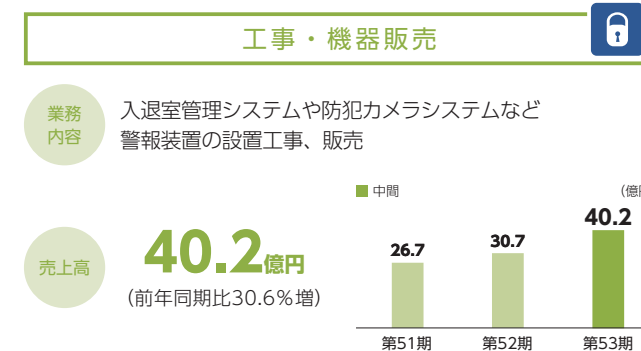
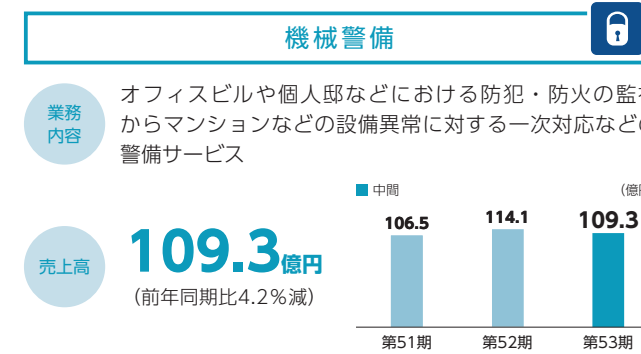
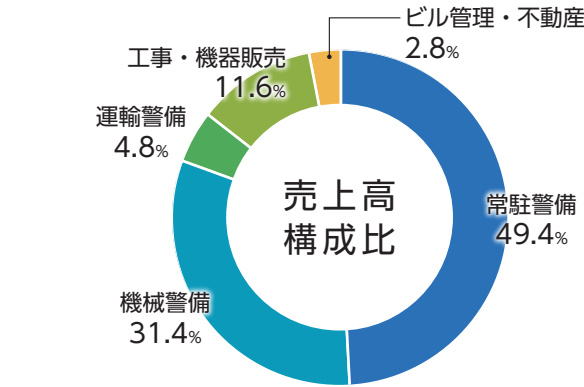
より詳細な情報は当社ホームページをご覧ください。
<https://www.we-are-csp.co.jp/ir/index.php>

CSP IR情報

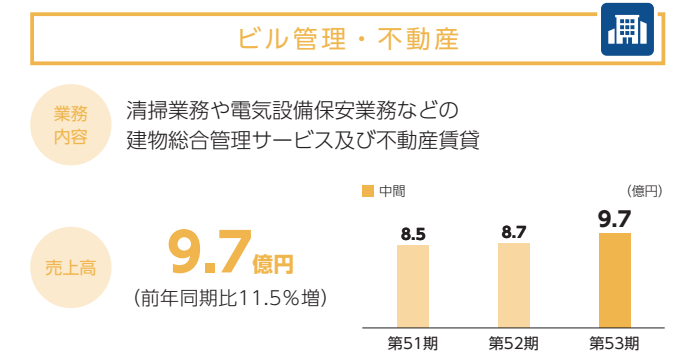
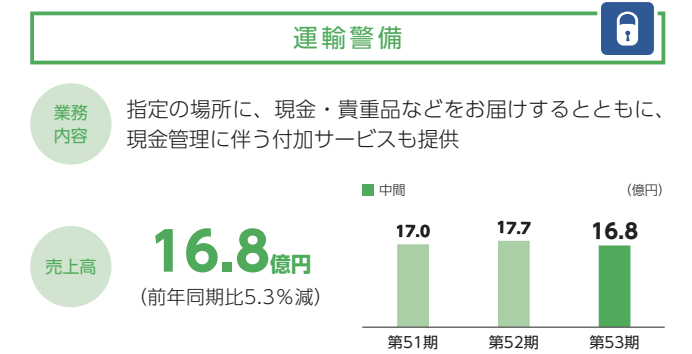
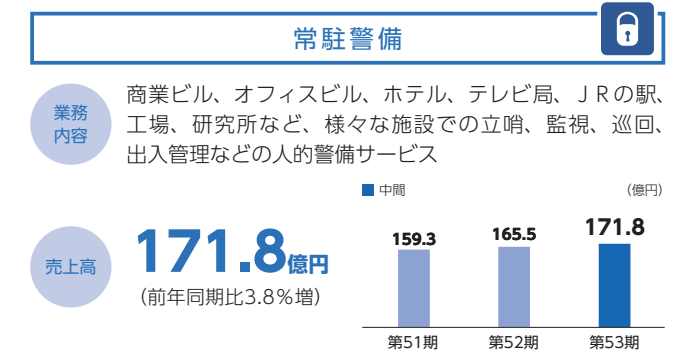
主要経営指標の推移



セグメント情報



セキュリティ事業 ビル管理・不動産事業



▶ 新事業分野への展開

中期経営計画「Creative 2025」の主な取り組みの一つに、新事業分野への展開があります。ドローンを活用し、設備点検事業の提供と更なる拡大、大規模イベントの開催に伴う関係官庁向けサービス、ドローンスクールなどの事業についても更なる機能拡充・強化に努めてまいります。こうした取り組みの一環として、ドローンベースカーの販売及びレンタルサービス、新型ドローンの販売を開始いたします。

▶ CSPドローンベースカーの販売及びレンタルサービスを開始



CSP ドローンベースカー（イメージ）

株式会社モビリティナビ（以下モビナビ）と業務提携の上、ドローンベースカーの共同企画、販売を開始することを10月に発表しました。昨今の異常気象や大型地震による自然災害において、上空からの被害状況確認や被災者の捜索、二次災害回避における活用等でドローンが活用されるシーンが増えてきております。

このため当社とモビナビは、災害支援時や警備用途で活用する移動式指揮車として効果を発揮するドローンベースカーを企画し、販売を開始することを決定しました。ドローンベースカーは、大型短期イベント等における短期レンタルも計画しています。このほかドローンによる設備点検サービスやスクール事業においても、両社の特性を活かした事業展開を進めていきます。

主な機能

- ・ドローン等各種設備の給電機能
- ・ドローン離発着ポート機能
- ・衛星通信機能 (StarLink)
- ・各種映像監視機能
- ・サイネージ機能
- ・C-UAS機能 (カウンタードローン)

販売開始 2025年4月以降予定

▶ 防災・警備向け有線・無線式ハイブリッドドローンの開発・販売を開始

当社は新型のドローンを12月より販売開始予定です。サーマルカメラ及びAIを搭載した有線給電式ドローン〈CSPEVO テザー〉を開発・販売し、災害支援ツールとして効果的な有線給電式照明ドローンを販売いたします。10月のテロ対策特殊装備展のCSPブースでは展示も行いました。それぞれの詳細は下記のとおりです。

CSPEVO テザー



特徴

- ・CSP独自開発のケーブル制御機能により、30mの係留飛行が可能
- ・通常バッテリーによる無線飛行も可能なハイブリッド運用
- ・商用電源 (AC100V) でも運用可能
- ・AIトラッキング機能及びサーマルカメラにより、高度な長時間広域監視が可能
- ・A-Mesh機能の中継機として長時間運用が可能

有線給電式照明ドローン



水難事故における捜索支援で照明として機能

特徴

- ・災害発生時等、緊急時の照明として機能
- ・簡単な操作で誰でも扱え、一人でもリモコンによるボタン操作だけで運用が可能
- ・震災や海難事故等、夜間時の救難活動において実績多数

販売開始 2024年12月予定
CSPEVOテザー、有線給電式照明ドローン

▶ グループ連携の強化とM&Aの推進

中期経営計画「Creative 2025」では主な取り組みの一つとして、グループ収益の最大化を目指しています。当社及び連結子会社12社、関連会社1社による連携を一層強化。従来よりターゲットとしていた同業である警備会社や警備事業の周辺会社（ビルメンテナンス会社や電気通信系の工事会社）のM&Aを目指します。

当社及び連結子会社12社、関連会社1社 グループ収益の最大化を目指す

地域補完 子会社

当社の直接の出先機関（支社・事業部）のない地域において当社と同様の警備事業を提供する企業

▶ 当該地域において「**No.1の警備会社**」を目指す

- 新安全警備保障(株) (SASP)
- 長野県パトロール(株) (NP)
 - 長野県交通警備(株) (NK) ▶ NPの子会社
- (株)特別警備保障 (TOKKEI)
- CSP東北(株) (CSPTK)
- 東亜警備保障(株) (TOH-A)

事業補完 子会社

【関連事業】

- 常駐警備（人的警備）をメインとした事業会社
- 駐車場の障害対応やコールセンター事業をメインとした事業会社

【周辺事業】

- ビル管理・不動産事業をメインとした事業会社
- セキュリティ機器の設置・施工（電気通信）をメインとした事業会社

- CSPビルアンドサービス(株) (CB&S)
- 関西シーエスピー(株) (KNCSP)
- エスシーエスピー(株) (SCSP)
- (株)CSPクリエイティブサービス (CSPCS)
- シーティディーネットワークス(株) (CTD)
 - (株)グラスフィアジャパン (GJ) ▶ CTDの子会社

｜ 阪急阪神ハイセキュリティサービスの常駐警備事業を承継

2024年5月15日、阪急阪神ハイセキュリティサービス株式会社が直轄運営する常駐警備事業を、吸収分割の方法により当社が承継する吸収分割契約を締結しました。阪急阪神ハイセキュリティサービス株式会社を分割会社とし、当社を承継会社とする契約で、7月1日に吸収分割を行い、常駐警備事業に関する権利義務を継承しました。



効果

中期経営計画「Creative 2025」では、基本戦略の一つ「グループ連携の強化」として「M&Aの推進」を掲げています。本計画の最終年度（2026年2月期）の連結経営目標は、売上高800億円、営業利益率8.5%を計画。今回の事業継承により、関西地区での新たな取引基盤（当社の強みである鉄道系企業との取引）を獲得し、大阪万博の開催（2025年開催予定）や大阪梅田エリアの再開発事業におけるセキュリティニーズを積極的に取り込み、本計画の達成を目指してまいります。

今後もこのようなM&A（事業譲受）の実施により、当社とシナジーが望める「企業」または「事業」をCSPグループに取り込んでまいります。

主な沿革とM&Aの実施



「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」 構成銘柄に初選定

2024年7月、環境、社会、ガバナンス (ESG) の対応に優れた日本企業を選定する「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に、当社は初めて選定されました。

上記インデックスは、グローバルインデックスプロバイダーであるFTSE Russellから提供されているESG指数で、世界最大の年金基金である年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が、最新のESGパッシブファンドのベンチマークとして採用するなど、投資における重要な判断基準として活用されています。

また、低炭素経済への移行を促進するため、特に温室効果ガス排出量の多い企業では、TPI経営品質スコアにより改善の取り組みが評価される企業のみを組み入れています。

当社は、創業の理念「仕事を通じ社会に寄与する」「会社に関係するすべての人々の幸福を追求する」をあらゆることの基盤として事業を展開してまいりました。私たちは、「すべての人々」の中に「未来の人々」も含まれていると捉え、サステナビリティ経営を推進しています。今回の選定は、この考え方と取り組みが認められたものであり、引き続き、現在もそして未来も人々の暮らしがともに幸福であるように、取り組みを深めてまいります。



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

CSPのサステナビリティの取り組み

<https://www.we-are-csp.co.jp/sustainability/>



S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数に7年連続認定

上記に加え、当社は「S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」の構成銘柄に、2018年から7年連続で選定されています。S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスと日本取引所グループが共同開発した環境指標で、炭素効率性や炭素排出量に関する情報開示に優れた企業により構成されています。なお、当指数は年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)がESG投資を行うための指数に選定されています。



株式の状況

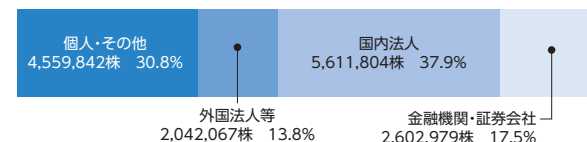
発行可能株式総数	40,000,000株
発行済株式の総数	14,816,692株
株主数	5,531名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東日本旅客鉄道株式会社	3,704	25.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,448	9.9
光通信株式会社	585	4.0
セントラル警備保障社員持株会	535	3.7
セントラルセキュリティリーグ持株会	510	3.5
三井物産株式会社	445	3.0
BNP PARIBAS LUXEMBOURG/2S/ JASDEC/JANUS HENDERSON HORIZON	411	2.8
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	375	2.6
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505301	261	1.8
HSBC BANK PLC A/C M AND G (ACS) VALUE PARTNERS CHINA EQUITY FUND	237	1.6

(注) 1.持株数は、千株未満を切捨てて表示しております。
2.持株比率は、自己株式(193,238株)を控除して計算しており、小数第2位以下を四捨五入して表示しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで	公告の方法	当社のホームページに掲載する。 https://www.we-are-csp.co.jp/	(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
定時株主総会	毎年5月開催	株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	(電話照会先)	☎ 0120-782-031
基準日	期末配当金 毎年2月末日 中間配当金 毎年8月31日 そのほか必要があるときは、 あらかじめ公告して定めた日	株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	(インターネット ホームページURL)	https://www.smtb.jp/ personal/agency/

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主さまには、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

会社概要

商号	セントラル警備保障株式会社 CENTRAL SECURITY PATROLS CO.,LTD.
創業	1966年3月10日
設立	1972年4月19日
資本金	29億2,400万円
従業員数	4,039名

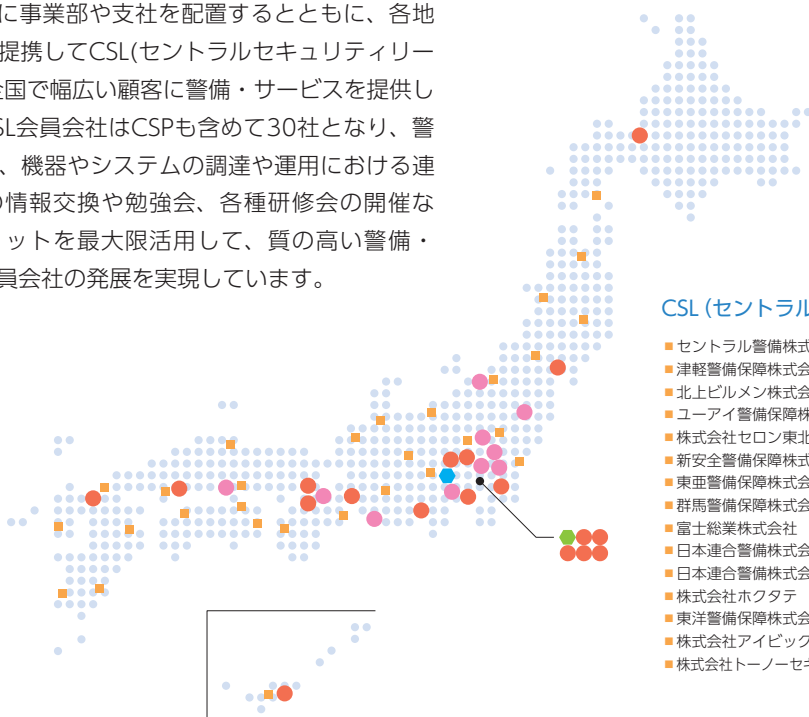
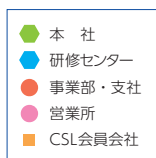
役員

(2024年9月1日現在)

取締役会長	澤本 尚志		
代表取締役執行役員社長	市川 東太郎		
取締役専務執行役員	小久保 正明		
取締役常務執行役員	堀場 敬史	阪本 未来子	
取締役 監査等委員	田端 智明		
取締役 監査等委員(社外)	後藤 啓二	檜山 竹生	唐津 真美
常務執行役員	渡部 博幸	松本 直樹	
	立花 博美	三浦 直樹	
執行役員	阿部 雅志	宮本 直行	嶋原 公男
	遠藤 武彦	増崎 昌子	原田 茂雄
	田邊 裕喜	八幡 誠	三谷 武士
	古野 暁	筒井 健	楠木 啓之

日本全体に安心をお届けするCSL(セントラルセキュリティリーグ)のネットワーク

CSPは、主要都市に事業部や支社を配置するとともに、各地の優良警備会社と提携してCSL(セントラルセキュリティリーグ)を結成して、全国で幅広い顧客に警備・サービスを提供しています。現在CSL会員会社はCSPも含めて30社となり、警備実務の相互協力、機器やシステムの調達や運用における連携、営業や技術の情報交換や勉強会、各種研修会の開催など、スケールメリットを最大限活用して、質の高い警備・サービス提供と会員会社の発展を実現しています。



CSL(セントラルセキュリティリーグ)会員会社

- セントラル警備株式会社
- 津軽警備保障株式会社
- 北上ビルメン株式会社
- ユーアイ警備保障株式会社
- 株式会社セロン東北
- 新安全警備保障株式会社
- 東亜警備保障株式会社
- 群馬警備保障株式会社
- 富士総業株式会社
- 日本連合警備株式会社(山梨)
- 日本連合警備株式会社(長野)
- 株式会社ホクタテ
- 東洋警備保障株式会社(石川)
- 株式会社アイビックス
- 株式会社トノーセキュリティ
- イセット株式会社
- 和歌山警備保障株式会社
- 株式会社山陽セフティ
- 北陽警備保障株式会社
- 株式会社CGSコーポレーション
- 東洋警備保障株式会社(徳島)
- 四国警備保障株式会社
- 株式会社セキュリティエヒメ
- 第一警備保障株式会社
- 株式会社ふよう長崎
- 日本連合警備株式会社(大分)
- 企業警備保障株式会社
- 株式会社ゼンケイ
- 株式会社南日本警備保障

(2024年8月31日現在)

会社案内(日本語版・英語版)を公開しました

当社ホームページにて、会社案内資料(電子版)を公開しています。セントラル警備保障のあゆみや事業内容を詳しく案内しておりますので、ぜひご覧ください。PDFはダウンロード、印刷が可能です。

<https://www.we-are-csp.co.jp/company/corporateprofile.php>



会社案内(日本語版)



会社案内(英語版)

